

The Women's News, Japan

〒160-0023 東京都新宿区西新宿3-7-28宝幸西新宿ビル
電話 03-3343-1846(代) FAX 03-3348-1890

月3回発行(10日、20日、30日) 振替口座 00150-7-172320
購読料 1年 6,500円 (郵送料、消費税込み・前納)



厚生白書

結婚や子育てに夢持てる社会を

ジェンダーの視点から分析した新鮮な文書

白書の姿勢は、婦孺と子育てに夢を持てる社会にならなければ、問題に解決しないと言い、国民的論議を期待している。夢がなくな

性の負担の大きさ、学歴偏重社会の負担(心理的、経済的 などと)、画一的、固定的社会の状況が結婚や家庭の魅力をなしく、子育て

地から論じてはならず、国民の選択であることを強調し、自立した個人をそれを支える家族、地域、職場、学校のありかたを説いている。

性の不満からくる結婚先延ばし、
った原因を、役所分業社会での女
仕事と家事・育児の両立を望む女
来年の年金改革（五年ごとに見
直し）に向け、年金審議会の答申

来年の改正（五年ごと）に見直し）に向け、年金審議会答申が秋にも出される。これと女性に関する税金と年金は、なかなかウイジョーが見えてこない。配偶者特別控除除廃止、「税金と年金を世帯でなく、個人単位」と主張してきた国婦人税理士連盟は、六月二十日、東京ワイメンズクラブ・ホールで「ボジウム（これからどうする）税金と年金」を開き、広く議論を行った。

性的な人格である。夫の格と専業主婦を、不当に支払われないかなという。育児と位置づけ、「不払労働者」と位置づけ、「不払労働者が女性の肩にかかっている限り、すべての女性は主婦的存在である。働く女性と主婦の対立は避けなければならない。結果として生じる、働く女性の低賃金・低年金にも言及、「将来は育児・介護休業期間と勤続年数に算入すべき」と提言した。

現年金制は、第三号被保険者（会社員や公務員に扶養されている配偶者）は、保険料を払わず、年金を受け取れる仕組み。保険料は、第一号被保険者（会社員・公務員）全体で負担している。専業主婦は「死亡」の場合、遺族厚生年金、夫の老齢厚生年金の四分の三を受け取るが、離婚の場合「基礎年金」がでない。

日本の女性の現状を踏まえ、具体的改革案としては、一、サマリマンの課税所から配偶者控除がなくなり、特別配偶者控除が設けられる。二、養の配偶者手当がカットされる。三、妻の年収が三百万円を越え、夫の夫喪家族が三百万

女性の結婚と男性の結婚の二つの現状で、夫の死に後継ぎのない女性が、自分の払った年金を掛け捨てにして、遺族年金を受け取ったり、シングル女性の年金を選んだ老齢年金が、遺族年金よりも少ないなど、問題がある。

上野千鶴子氏は「東京大学教授の基礎講座」で「日本の年金制度は、婚姻中だけでも、主婦婚ではなく、結婚中だけでも、主婦婚と相等でない不公平感には払えず

護する制度。か、保護の中身は多
がシンポジウム開く

へん支援する、福祉予算で盲人
介護そのものを支援する方が合
的と思」と見解を述べる。

いくため
重労働に
進

貧しさを
摘取る
ところ

体いくらになるのか？
なうてこした。
一丁半へ。

我が家に泊まった、バキス
タンのジャメル(男)とコロ
ンビアのレオボル(女)

さき日度 達 護 と

つでNGOの職員に保
れた、ということを知
った。

年フランスは、奴隷制
廃止してから百五十年
あたり、政府による
新式典が続く。だが、
もをこうして奴隷化し
今日のシステムを根

会長）では十六日、画社会基本法（仮称）をまとめ公表した。

男女共 論

側けなしか選択の余地なく、専業主婦は無業の弱者ではないと考えるも「第三号被保険除は八五年にできたまでは無業の主婦の入していた」と、いすべき」という意見

「第三号」の保険する人には保険料のない人には保険料という方針に立ち、規程を「年収百三十・「年収九十万円未満の被扶養者」と見直し審議会」で提案。「払って、結局無年金者」に活福祉局長で審議会、榎本純さんが説明、これに対して太田

きている姿を描いてい
地域では、人間関係



ーズは、読者とともにつくる新聞です

化させるための五の目標を達成するために必要であり、また経済社会環境の変化に対応するためにも必要であるとしている。ビジョン後の状況変化も加味し審議会では新たに地球規模の経済競争の中で環境との共存をしながら日本が発展をするためには多様化・個性化による価値の創造のために、男女共同参画社会の実現が緊急課題とした。


同基本法は、男女共同参画社会の実現に関する基本的な方針・理念などを規定し、その実現に関する施策を総合的に推進する

ければならないとしている。同基本法は、市民団体が求めている男女平等オプドなどの監視機構の設置や、罰則規定などの具体的な内容を求めた「男女平等基本法」とは、さきか趣を異にしている。これは、「基本法」が、あくまでも施策実施のために必要な法制上の措置を包括的に規定するためのものだからだ。直接国民の権利義務を規律する規定を設ける個別領域は、他の個別法令が定める基本法に期待できるのはその誘導効果だ。

義論された論点。「国定憲

すること
する義がある
う」。

た、岩男
は、「基
法は、男
日本社会
のものが
うのがポ
ト」と言
論点整理
めに対す
見をどん
よせて欲
活て



参画社会基本法(仮称)

点整理をまとめ公表

参画審
美子部
共同参
点整理
共同参
立、政策・方針決定過程への参画
による民主主義の成熟を図る、シ

同論点整理は、基本法の必要
性、基本法に盛り込むべき事項の
二本立て、「必要性」では、男女
共同参画ビジョン^①の人権の確
立、政策・方針決定過程への参画
阻害する要因の除去、政策・方針
決定過程の男女共同参画なさを理
念として掲げている。そのため
に、政府は必要な法制上・財政上
の措置を講じなければならない。
行政への苦情や基本理念に反する

を男女及び社会全体で担う基本理念に入れるか、オンラインを含む苦情等の処理の具体的な措置を必要にないかなどを規定すべきではないかなどを審議会で見えて概要については説明

橋瀬六郎（基本法検討小委員長）さんは「多くの人の心に持つてもらうために、専門的に進まなかった、たくさん変わる。男女共同参画社

ある。女性も多
うと社会
。斎藤さ
保険料免
で、それ
が任意加
も「負担
長の遠

者たの声が聞こえてこない」と
いう話があったが、三号被保険者
が多数の職場で働く会場参加者か
らは一年金保険料は夫が払ってい
ると思っている人が多く、夫の方
もそうではないか。きちんと説明
していけば分かり、制度も変わっ
て行くのではないかと発言があっ
た。

「年金審議会に、パートタイマー委員がいない」などの指摘も会場が

は、「子
も」ある
を、年金
を、年金
を、年金
を、年金

「三号」の
八歳以上
満）から
入合は収入
割しない
こと、生
てもある
を、年金
を、年金
を、年金

自らが支払う、2夫の社会保険料に
加算、天引きする、3所得に応じ
所得税と一緒にもめる（所得がない
場合は夫が支払う）などの案を
提示。配偶者控除（配偶者特別控
除は廃止）については、十五位
を引き下げ廃止、基礎控除を引き上
げる、二人分の基礎控除が適用さ
れる、二分二乗方式との選択制に
するなどいくつかの代替案を提示す
る。

「育兒・介護を兼ねた勤
ばされている専業主婦も多い。政

遠田篤
耕士

第3号被保険者を代表する審議
出された

第1部

少子社会を考える

—子どもを囲み育てることと「子育てする社会」—

厚生白書にはカットもたくさん入り
読みやすい

に夢か持てる社会の形成につながる
としてゐる。

ひとつひとつの身中には、反論
もあるだろう。たとえば、子育て
サービスで、一九五〇年代半ばから
、都市郊外住宅が建設され、親
族や地域の子育て支援が受けつゝ
いたため保育所が増設されていつ
た、といった書き方は、それ以前
から働くことと子育ての両立を
もつめ保育所運動を進めたい女
性たちから異議が出そうだし、現
在の保育所が二丁二にたえきれ

題を考へる」等、厚生が有るは家庭で育てるべきと強調することから広まっても、その厚生そんなことよりも、その厚生三蔵兒神話は根拠がない、きつたことの意義が大きい。「白書」は状況の分析であり、うちに行政に直結するものではないが、女性としての白書を読んでみるところが、施策に反映することを強く望む。(S)



のまとめについて報告。右から古橋、岩男さんと
サトウ参画室専さん

情熱た▼九八六年、教師退職後、退職年金をすべてつぎま、広島に古いアパートを借り、ヒロシマ・ナガサキの修学旅行を手伝う活動などをした。十年間に電話をした学校はのべ千校、生徒数千万人という▼「あなたから出た発しの人や平和の種をまくさんの人、バチとバチで、詩人として井中学の同僚・石川遼さんの弔辞から生誕した。

ん」といふ遺族を口説き落とした▼こうして実現した遺族のナマの声は、戦争を知らない子どもたちの心を動かした。「上平井方式」とよばれる学校にも広まっていた。平和教育としても大きな歴史だが、それまで体験を話そうとしなかった普通の市民を「語り

中学校や女学校の慰靈碑の前で、死んだ子の肉親から話を聞けないか、と考えた。だが、こんなことが出来るかと、当時はだれも思わなかった。広島教師に頼んでも遺の住所もわからない断れた▼江口さんは遺族を探し、証言を頼んだ。休むをふし広島に行き、遺族の家を訪ねた。

から八百一十トルの至近距離を被爆。全身に傷を負いながら足跡の命をとりとめ、東京教師に。一九七六年、東京葛飾区上平井中学の教員の時、新幹線が西まで伸び、東京―広島が三日で往復できるようにしたのを機に、広島修学旅行実現させた。江口さん、修学旅行の中学生と同じくらいの年の子どもが

たんぽぽ

を一人でも多くの若者に伝えた」と被爆地への修学旅行を実現させた元・中学教員の江口保

